

**〔鹿島厚生病院併設介護「老人保健施設厚寿苑」新設事業〕**  
南相馬の希望の砦へ「厚寿苑」の竣工式が行われました

1月30日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第5次助成先の一つである福島県厚生農業協同組合連合会（以下、福島厚生連）は、かねてより建設中の「介護老人保健施設 厚寿苑」が完成し、竣工式を執り行いました。

南相馬市は福島県浜通り地区の北東部に位置し、農業、水産業のみならず、「相馬野馬追」や日本有数のサーフスポットとして知られる豊かな観光資源に恵まれた地域です。しかし、東日本大震災による津波被害及び原発事故で、福島第一原子力発電所から30kmの範囲の一部地域が帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域に指定されており、指定外地域に位置する鹿島区は多くの被災者の避難地域となりました。そのため鹿島区の人口は高齢者を中心に震災前から約2,000名増加した一方、病院は16施設から9施設へ、老健施設も8施設から4施設へと減少し、相双地域全体の医療・介護環境が悪化、特に老健施設等の介護施設の大幅な不足が深刻な問題になっています。そこで、鹿島厚生病院及び併設の「介護老人保健施設 厚寿苑」を運営する福島厚生連は地域医療・介護サービスの充実、強化のため施設増床を計画。現在の58床から100床に、通所リハビリテーションの定員も1日20人から40人の2倍に施設を拡充することにしました。

ヤマト福祉財団では、平成24年4月に南相馬市及び相双地域の地域医療・介護サービスを地域復興の大きな礎と考え鹿島厚生病院併設の「介護老人保健施設 厚寿苑」の新設事業へ10億円の助成を決定しました。

平成25年1月31日に起工式が行われ、この度、竣工の運びとなりました。竣工式で福島厚生連の庄條徳一経営管理委員会会長は「介護支援の中核を担う施設であり、地域復興のシンボルとして高齢者医療・介護の充実と地域の復興再生に邁進します」とあいさつ。櫻井勝延南相馬市長は「一人ひとりのために働き、希望与える仕事をみんなでやっていくことで、厚寿苑が南相馬の希望の砦に変わる。頑張ってください」と祝辞を述べました。



オープニングのテープカット。左から2番目に内田和成東日本大震災復興支援選考委員会委員長、左から3番目が有富理事長



完成した厚寿苑全景（鹿島厚生病院屋上より）



「地域復興のシンボルとして復興再生に邁進します」と庄條徳一経営管理委員会会長



「南相馬市の復興の希望の砦として発信していきたい」と櫻井勝延南相馬市長

**〔新施設の概要〕**

- 建物：鉄筋コンクリート造、地上3階建て
- 敷地面積：2992.27㎡ ●延べ床面積：3647.17㎡
- 収容人員：病床数／100床、通所リハビリテーション／40人（2単位）
- 施設には居室、機能訓練施設のほかに地域の方が集まれる地域交流スペースが併設されています
- 2月1日開所となります



光がいっぱいに差し込む食堂



フロア中央にあるスタッフステーション



機械浴室、個浴室を配備した入浴施設



採光に配慮した明るい居室



完成した厚寿苑を見学する内田選考委員会委員長と有富理事長  
(内田和成 早稲田大学商学学院教授)



入口エントランスに設置された竣功碑  
震災の状況や助成に対する感謝の言葉が明記